

第1回理数科サイエンスセミナーが、10月12日（水）4・5限、首都大学東京の海老原充教授をお招きして開催されました。演題は「太陽系の進化と原子量」です。

ご講演は「原子量表(2016)」から始まりました。これは桁数が10桁以上であったり、変動幅で示されていたりする原子量表です。理数科の生徒も少なからず驚いたのではないのでしょうか。その後、ご講演は元素の起源としての宇宙創成、太陽系の元素組成、そして元素の同位体組成ということで原子量の内容に帰結しました。また、ご講演の後半部分では、元素と同位体に関わるトピックスとして、宇宙探査機はやぶさが持ち帰った小惑星イトカワの微量粒子の元素組成、福島原子力発電所事故にかかわる海老原先生のご研究にも話が広がりました。原子量、然れど原子量。原子量の話から宇宙に、そして人間社会に大きな広がりを持つご講演でした。

今後も理数科ではサイエンスセミナーとして、大学や研究機関の専門家をお招きして、各分野の最前線のお話をうかがいます。

